

# 独立行政法人国立文化財機構

National Institutes for Cultural Heritage



参考資料

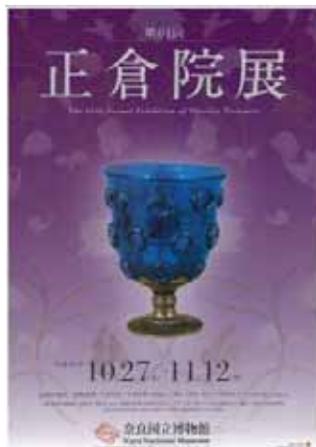


# 国立文化財機構が開催する展覧会

多数の来館者を  
集めた展覧会

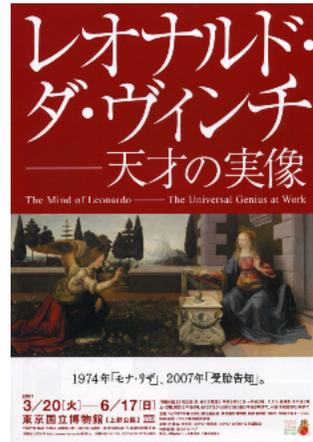


「国宝 阿修羅展」  
(東京国立博物館)

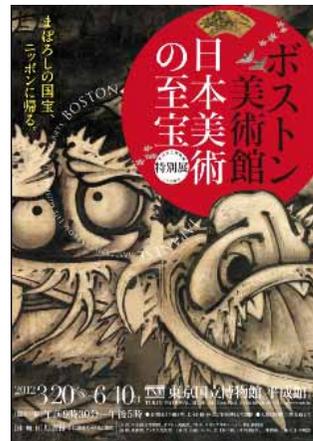


「正倉院展」  
(奈良国立博物館)

国際文化交流として  
意義のある展覧会



「レオナルド・  
ダ・ヴィンチ展」  
(東京国立博物館)



「ボストン美術  
館 日本美術の  
至宝展」  
(東京国立博物館)

学術的意義の  
高い展覧会



「宸翰  
天皇の書」  
(京都国立博物館)



「京都御所 障  
壁画展」  
(京都国立博物館)

# 1. 必要な専門人材の人的費の確保

## 文化財の「保存」と「公開」を支える専門人材の使命

- 収集・保管 貴重な文化財の散逸を防ぐ
- 保存・修復 脆弱な文化財を守り、未来へ継承する
- 調査・研究 調査、研究が、あらゆる活動の根幹となる
- 展示・公開 文化財について多くの方々にわかりやすく楽しく伝える
- その他各分野の専門スタッフが必要  
教育普及・ボランティア活動、情報・文化財アーカイブ、広報・出版、  
国際交流・地域交流 など

東日本大震災後の文化財レスキュー事業では、中心的な役割を担った

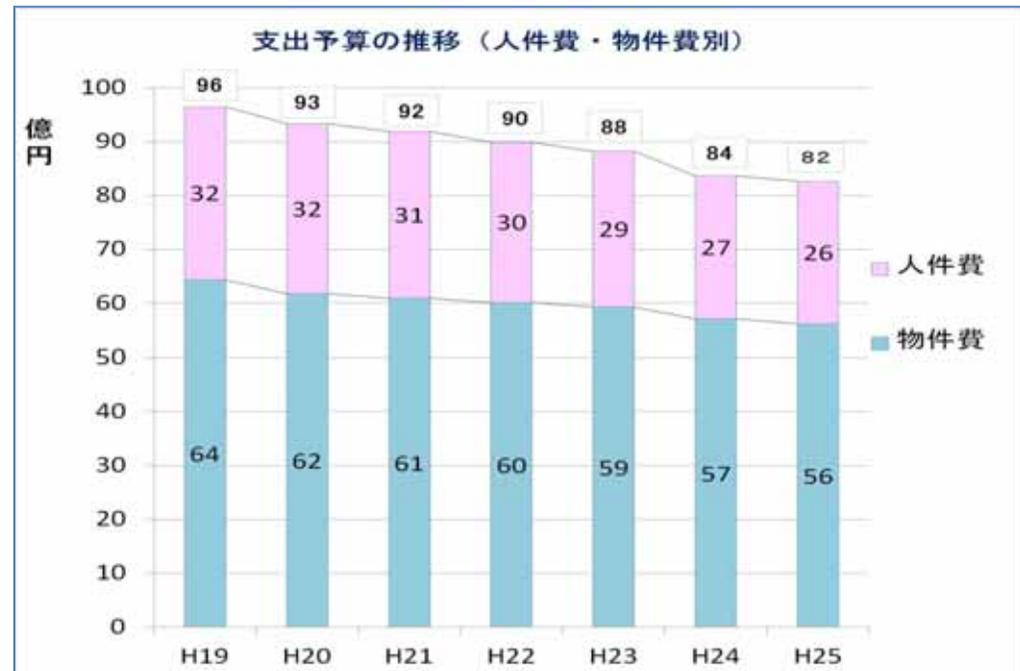


貴重な文化財の展示・公開  
(阿修羅展)

- 人件費 6年で **5.7億円削減**(▲17.7%)
- 物件費 6年で **8.2億円削減**(▲12.7%)
- 合計 6年で **13.9億円削減**(▲14.4%)



- 文化財の保存、公開、継承に必要な**専門的人材の確保**ができない
- 一律削減では**人材育成**ができない
- 計画的な**業務運営**ができない



## 2. 適切な運営費交付金の確保

### 運営費交付金の充実がもたらす様々な効果

- 収集・保管 守るべき文化財の散逸防止、国内で保管、展示
- 保存・修復 多数の文化財を定期的に修復し、永く後世に伝承
- 調査・研究 国内外の貴重な文化財の調査と研究成果の発表
- 展示・公開 国民共有の財産を鑑賞できる機会の増加
- 広報・出版 効果的な広報により来館者増につながる
- 国際交流・地域交流 文化を通じた交流と日本の存在感の向上
- 施設整備 バリアフリー環境の強化ができる



劣化した文化財(仏像)の修理

- 運営費交付金 6年で **16.1億円削減**(▲18.8%)
- 自己収入予算 6年で **2.2億円増加**(20.5%増)



- 経営努力による自己収入を増やすほど運営費交付金が削減
- 運営費交付金は削減されるなかで自己収入予算(目標額)だけは高く設定



### 3. 経営努力認定の現状

#### 【現状】

- 魅力的な展覧会の開催、貴重な文化財の公開促進による入場者数の拡大などの経営努力
- 平成13から15年度は承認された目的積立金を運営に活用（文化財の購入、来館者への観覧環境向上への対応、など）
- 平成16年度以降は、目的積立金の承認は0円

#### 【課題】

- 目的積立金の制度が有効に運用されていない
- 利益向上に向けた法人の努力が反映されない



魅力的な展覧会の開催(正倉院展)

